

頑張る

農業法人

J A 京都やましろの子会社「株式会社ジェイエイヤましろファーム」は、J A が主導する農業生産法人としては府内初の J A 出資型法人だ。これまで J A が担ってきた水稲の受託作業や、育苗施設、乾燥調製施設の運営を引き継ぎ、自らが担い手として認定農業者となり、特産物の生産や新規就農者の育成など、地域農業振興に取り組んでいる。

「J A 管内では、温和な気候と都市近郊の恵まれた立地条件を生かし、京都米や京野菜、宇治茶などのブランド力を発揮した農業生産が行われている。」

「J A では 2012 年に、向こう 5 年間の農業振興計画である「やましろ農業チャレンジプラン」を策定。農家と地域住民・消費者が力を合わせて、恵まれた環境を生かした農業を次代に引き継ぐための取り組みを始めた。」

「高齢化による担い手の不足や不耕作地の増加など、農業基盤が脆弱（ぜいじやく）化する危機感が背景にある。」

「プランでは、集落での話し合いを基に将来の地域農業の姿を描く「地域営農ビジョン」の策定の取り組み、担い手対策、農地対策、産地対策、販売対策を掲げる。プランの実現のためには、地域農業を補完・支援する同社の設立が急務であった。」

「昨年 6 月の J A 通常総代会で同社への出資を決議し、7 月 5 日に資本金 1000 万円の 98% を出資して設立した。」

「J A 管内を事業エリアとする同社は、J A の役員が 3 人、従業員 3 人、アルバイト 2 人で運営する。昨年年度は本社所在地の井手町で、農家約 50 戸から作業受託 8 畝、水稲 50 畝の作付け、パイプハウ

(株)ジェイエイヤましろファーム 井手町



地域農業振興へ頑張る法人の役員ら

初の J A 主導出資型

地域農業振興のモデルへ

スで万願寺とうがらしを 10 畝作付けした。今年度は、約 7 万箱の育苗、精華町で 50 畝の休耕農地の集積に加え、農業者の所得増大に向けた営農モデル作りの第 1 弾として、鉄骨ハウスでトマトの養液栽培生産を開始するなど、着実に事業を拡大している。

また、観光農園の取り組みも計画するほか、農地中間管理機構を積極的に活用して地域の担い手への農地集積を支援していく予定だ。

同社の辻光男常務取締役（60）は、「今後、高齢化で当社が引き受ける農地が増えてくる。J A としつかりタッグを組んでそうした農地の受け皿となり、地域農業振興のモデルとして、さまざまな挑戦もしていきたい」と話す。

▽法人所在地 京都府綴喜郡井手町多賀小字流田 19 の 3。電話 0774 (82) 5400